

## ◇ 花北地区コミュニティ協議会設立10周年を迎えて

### あいさつ



花北地区コミュニティ協議会会長 大久保 素志

この度、花北地区コミュニティ協議会設立10周年を迎えたことを機に、記念誌を発刊することとなりましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、当協議会は平成19年度に小さな市役所構想として、市内27地域に振興センター誕生とともに「地区コミュニティ会議」として設立されました。

当地域は、昭和48年に自治省から全国30箇所のうちの一つにコミュニティモデル地区として指定を受けたことに端を発し、「花北地区コミュニティ推進協議会」が主体となり、38年間の長きに亘り自主事業を展開してきたことにより、既にコミュニティが形成されておりました。

そこに新たに「コミュニティ会議」が誕生したところから、平成23年に「花北地区コミュニティ推進協議会」と「花北地区コミュニティ会議」が統合し、「花北地区コミュニティ協議会」と名称変更し、本年ここに10周年を迎えたところであります。

発足当時、拠点施設でありました花北コミュニティセンターが老朽化していたことや、平成23年の東日本大震災被害などもあったこともあり、予めから花巻市に建設要望を出しておりました。

その要望がやっと認められ、平成22年度設計予算が計上され、晴れて平成25年3月新しく振興センター落成の運びとなったところでした。

この建設実施にあたりましては、当時の西村会長さんと齋藤会長さんには相当なご苦勞があったのではとご推察するとともに、改めて心より感謝と御礼を申し上げます。

お蔭様で地域に開かれたこの花北振興センターの利用度も年々高まり、平成27年度は2,029件、26,506人の方々に利用していただき、正に地域の重要な拠点施設として認識され、大変喜ばれております。

昨年4月の総会で、新「花北地区コミュニティ計画」も承認され、安全・安心でやすらぎのある「我が花北地区」が実感できるよう目指す地域の将来像を「ひとがつどい やすらぎと活力に満ちたまち 花北」と設定いたしました。

花北地域のみなさん！この目指す将来像に向かって、共に参加し一緒に行動いたしましょう。

今年度から市の派遣職員が吸い上げられ、生涯学習事業もコミュニティ協議会が行うこととなり、まさにコミュニティ協議会が一人立ちして活動することとなりますが、市行政におかれましては従来と変わらぬご指導、ご支援を切にお願い申し上げますとともに、各地域の皆様方には、我が花北地区コミュニティ協議会に対しまして、更なるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 祝 辞



花巻市長 上 田 東 一

花北地区コミュニティ協議会が設立10周年の節目を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

平成18年の合併により新しい花巻市が誕生した後に市内には27のコミュニティ組織が設立され、それぞれの地域における課題の解決や自立と協働の推進を図るため、市民に密着した特色ある地域づくりを積極的に行っていただいております。

花北地区コミュニティ協議会におかれましては、平成19年度より地域ビジョンである「花北地区コミュニティ計画」策定に取り組み、平成20年度に市内ではいち早く地域ビジョンを策定され、計画的かつ積極的に地域づくりに取り組んでこられました。設立10周年となる本年度には、第2期の「花北地区コミュニティ計画」を策定され、「ひとがつどい やすらぎと活力に満ちたまち 花北」の将来都市像の下、地域住民、地域団体が連携して地域づくりに取り組まれており、今後とも地域の皆様による魅力ある地域づくりの推進にご期待を申し上げます。

我が国においては本格的な人口減少社会を迎え、地方都市においては定住人口の確保と地域活性化に向けた取り組みが重要な課題となっております。

花巻市といたしましては、市民の皆様とともに地域の特性や文化、恵まれた自然や豊富な地域資源を活かしたまちづくりを進めているところであり、昨年度は「花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、移住定住の促進や若い世代の結婚から子育てまでの支援など様々な施策に取り組んでおります。地域が輝くことは花巻市全体の発展につながることであります。

花北地区コミュニティ協議会におかれましても、今後とも地域に根差したまちづくりに寄与されるとともに、魅力あるまちづくりへの取り組みを広く発信し、地域の活性化につなげていただくことを期待しております。

結びに、花北地区コミュニティ協議会をこれまでお導き下さり、発展にご尽力くださいました多くの方々や関係者の皆様に感謝申し上げ、今後のさらなるご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



## 10周年を祝して



前花北地区コミュニティ協議会長 西村 博

設立10周年を迎えられた花北地区コミュニティ協議会に対し、心からお祝いを申し上げます。

また、過日の10周年記念式典では、過分なる表彰状まで頂き、重ねて御礼申し上げます。

大石満雄前市長の「小さな市役所構想」から芽吹いた当組織も、実は半世紀に近い年月にわたって先輩達が育てて来たコミュニティ活動の実績がありました。

昭和48年7月、当時の自治省から全国30カ所の一つとして、本地区がコミュニティモデル地区の指定を受け、直ちに「花北地区コミュニティ推進協議会」を立ち上げ、翌年活動拠点として、花北コミュニティセンターが建設され、以来、連綿として続けられてきたコミュニティ活動が発展的に今日へと実を結んだものと考えています。

当協議会に関わっては、眞下勝義初代会長の跡を引き継いでの小生の登板でしたが、草創期ということもあり、何かと戸惑う事も多い中、11行政区から選ばれたスタッフの皆さんや事務局の平賀久男さんらのサポートを頂きながら、何とかその任を終えることができました。

任期中の思い出は色々ありますが、その一つは、各専門部の委員の方々が結集して仕事を果たすそのエネルギーであったり、全地域挙げての防災訓練に住民・関係機関すべての協力を得て無事終了できたこと。また、同時進行で取り組んだ「花北振興センター」の建設も、長期にわたって推進協議会の会長を勤められた齋藤政人さん等のご尽力で、市内で最も優れた施設として、現在地域のコミュニティ活動の拠点として機能していることは、誠に喜ばしい限りです。

更には、「小さな市役所構想」の目玉商品であった市からの活動補助金1,200万円の使途や11行政区への配分方法をめぐって汗をかいたことなども、今となっては思い出の一つとして甦ってきます。

10年を経て本地区は、少子高齢化社会にあって、市の人口の割以上を占める中心地域となっています。それだけに、地域がかかえる課題も多く、それらの課題解決には、「絆」に裏うちされた地域住民のエネルギーが求められます。

当協議会が、そのエネルギーの中核となって機能を果たしていくことを期待しています。



## 10周年に寄せて

前花北地区コミュニティ協議会会長 似 内 久 展



地域の課題を掘り起こし、住民自ら課題を解決することを目的に花巻市では平成19年度から小さな市役所構想のもと市内27の地域振興センターを設置し、運営主体としてコミュニティ会議を設け、花北地区では初代会長に愛宕町の故眞下勝義さん、2代目は小舟渡の西村博さんにコミュニティ会議の基礎をつくっていただきました。ありがとうございました。

課題解決の事業を推進するために、市から年間1,400万円の交付金を受けましたが、その後の見直しにより1,200万円に減額されました。地域づくり事業として大きなものは側溝の蓋かけ、カーブミラー、防犯灯の設置などハード事業が主なものでした。

花北地区にはコミュニティセンターがありましたが、このセンターの運営主体でありました先駆的コミュニティ活動をしていた花北地区コミュニティ推進協議会会長の斎藤政人さんのご理解のもと組織を一体化して、平成23年4月から花北地区コミュニティ協議会と名称を変更しました。

運動会、文化祭、スポーツ大会の行事を引継ぎ、5専門部会を組織して行事を推進しております。

近年、市ではハード事業よりソフト事業を重視する傾向があります。花北地区の方に講師をお願いして、花北地区の歴史講演会を開催しました。

その他の事業として平成24年から後川桜並木のライトアップを行っております。大変好評です。

東日本大震災の時、振興センターにありましたが、ものすごい揺れで立ってられないほどでした。施設の老朽のため入口と階段、体育館に行く通路に亀裂が入りました。応急の修理をしました。

斎藤政人さんに会長になっていただき、市に早期に振興センターの新築を要望し、平成24年9月に着工、平成25年3月25日完成しました。市内で一番最初の振興センターの新築でした。

地域元気フェスティバルは、平成24年度第1回開催でしたが、花北地区コミュニティ協議会は参加だけでした。平成25年度は総合成績が第3位、男子総員リレー第1位、女子総員リレー第2位でした。平成26年度第3回は、総合成績が第3位、女子総員リレー第3位でした。第4回以降については、市がアンケート調査したところ、賛成は少数で、以後実施しないこととなりました。

私は、花北地区コミュニティ会議の会長を1年、組織が一体化した花北地区コミュニティ協議会の会長を平成23年度から4年務めさせていただきました。これも一重に役員の皆様方のご指導、事務局の野崎義則さんのご協力のお陰です。

結びに、花北地区コミュニティ協議会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



## さらなる発展を！！



花北地区コミュニティ協議会顧問

花巻市議会議員 大原 健

花北地区コミュニティ協議会設立10周年を迎えまして、誠におめでとうございます。

一言お祝いを申し上げたいと思います。

思い起こせば、新市誕生に伴い新市長に就任された大石市長が提唱した「小さな市役所構想」の一環として、26カ所に分割し（後に1カ所増える）、花北地区に当コミュニティ会議として立ち上がりました。

他地区ではどのように運営するか困惑している時、当地区は昭和48年7月より自治省からモデルコミュニティ地区として全国30カ所の一つとして指定され、長きに亘り活動していましたので、大きな混乱もなく移行されました。

以来10年間歴代会長の下、様々な事業を行っていることに敬意と感謝を申し上げます。とはいうものの設立当初、市から交付される地域づくり交付金をどのように地区に配分し、どのようにして有効に活用するか、地区によっては困惑していたところもありました。ハード事業が多く、側溝のふた・カーブミラー・街路灯・防犯灯が各地区に設置されたことが一時流行りました。

その後、東日本大震災で見直された、防災に関する器具も行き届き、今後は住民の皆様のアイデアが不可欠なものと推察されます。小舟渡・四日町一丁目1区・一日市の3地区で後川沿いの桜並木をライトアップし並木ロードを演出したり（後に四日町二丁目も参加）、桜台地区では浴衣を新調し、夏祭りや秋祭りに地区として参加し手踊りを行い、地区民の結束を促す事業などは特筆すべきことと思います。

今年策定された「花北地区コミュニティ計画」に基づき、「ひとつがどい安らぎと活力に満ちたまち花北」を将来像に掲げ、市民参画・協働のまちづくりを合言葉にひとりひとりが輝き暮らしていける地区になることを祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 花北地区の発展を願って



花北地区コミュニティ協議会顧問

前花北地区コミュニティ推進協議会副会長 伊藤 貞三

私が一日市の区長に就任したのは平成4年で、それから平成18年まで14年間勤めさせていただきました。

その間に、花北地区の会長は坂本町の三浦さんから桜台の岡田さんに代わり、続いて私が勤めさせていただきました。

この間、それぞれの地区から寄せられた課題を解決するため、市に要望書を提出し、関係課を回って直接お願いしました。その内容は、桜台小へ通う児童の通学路の安全確保の問題や水害を伴う排水路の問題など生活にかかわることが多かった。

花巻市区長会では任意参加で研修旅行を企画していましたので、平成11年に行った関西方面の旅行は思い出に残る貴重な体験でした。

花巻空港から大阪空港へ（当時は花巻空港の利用促進が課題だった）さらに伊丹市からバスで太陽の塔を眺めて姫路城により、岡山で大原美術館を見学し、広島に入って尾道から島なみ街道に入って耕三寺を参拝、平山郁夫記念館を見学、大山祇神社、四国に渡って琴平金毘羅宮を参拝いたしました。

40年間の勤務を終えて4年後、行政区長の就任を求められた時は、在職中、町内の事に関心が向かなかったのが躊躇しましたが、無関心でいた罪滅ぼしと思い承諾いたしました。

区長の業務を続けるうちに、これまで町内や地域から恩恵を受けるだけで無関心でいたことがわかり、恩返しのため勤めさせてもらいました。

私にとっては人的交流が広がった貴重な体験でした。

